

# くるっとバン開発について

## ■経緯

ある日妻が寝る際に食品ラップを指に巻き始めました。

ところが、指先のサイズに丁度切るのが難しいうえ、巻くのに失敗したら引っ付いて使えない、イライラが募ってきて……ヽ( ˘ ˘)ノ

アカギレに悩む妻、今までは薬を塗って綿手袋を付けて寝ていたのですが、なかなか良くなりず、ネットで調べたラップ療法(密封療法)を試していたということでした。

そこで私も調べてみました、

- ・炊事洗濯をする女性にアカギレが多い
- ・薬の上から綿手袋を付けて寝ると良いとネットで推奨されている
- ・同様にラップ療法も効果的と推奨されている

でも考えました、

→綿は油吸着材に使われるほど水や油を吸収する素材、綿手袋の内側で薬が拭き取られている可能性は？

→ラップ療法は作業が大変な上に、薬を効果的に使う方法ではあるが、蒸れて逆に傷口に悪影響するリスクもあるらしい。

→薬を吸収せず、簡単に付けられて、蒸れない、薬の保護材を作れば妻にも多くのアカギレに悩む女性にもお役立ちできるのでは？

これが「くるっとバン」開発のスタートとなりました。

## ■苦労

薬と相性の悪い粘着は×、吸収する素材は×、ゴムサックなどアレルギーの可能性のあるものは×、蒸れるものも×。まず粘着を避ける意味で巻くという装着方法を考え付きました、性能的に解決する素材フィルムが非常に珍しいものではありませんが選定できました。

ただ「簡単」というキーワードを達成するのに、実は開発期間を3年かけてしまいました。

フィルムが薄いので1枚を取るのに引っ付いたり滑ったりで難しい、ことを解決すべく、フィルムに凹凸をつける、あぶらとり取り紙に良く使われるポップアップで1枚ずつ取り出せる、ことを思いつきました。しかし紙と違うので機械でうまく加工ができません。カールしたり、折れなかったり、問題ばかりで、多数の加工場を巻き込み、何度も何度も試験して「簡単にフィルムを取れる」今のパッケージができています。

水蒸気を通しねじり性のある特殊フィルム、カールせず凹凸をつける職人技、薄いフィルムを紙と同様に加工する技術、そのすべてが「くるっとバン」の製造には欠かせないものです。

アカギレに悩む女性に少しでも役立ちたい、携わる方々全員の思いで誕生させた製品です。

以上

機能素材株式会社 岡村岳尚